

---

# 幼馴染 恋人になる条件

りんか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幼馴染      恋人になる条件

### 【Nコード】

N0097Z

### 【作者名】

りんか

### 【あらすじ】

「結婚してください!!」      そうプロポーズしてきたのは、小学三年生の幼馴染の男の子。「あと15年経ってカッコイイ男の人になってたら、考えてもいいかも」と答えた次の日。高校生である相原美結の前にあらわれたのは、超絶イケメンの20歳くらいの男性。その彼が面と向かっていきなり告げてきたのは、「結婚してください」という突拍子もない言葉だった。いろいろな条件をつきつけて彼からの求婚を逃げ続けるものの、なんだかなし崩しの話が進んでしまっているような気がしてならない彼女と、そんな彼女に

ふりまわされているはずなのに、異世界で最強の力を手に入れたおかげで、なんなく条件をこなしていつてしまう彼とのラブコメディ話（の予定）。

## (1) (前書き)

ちよっと思うところがあり、衝動的に書いてみました。不定期更新になりますが、よろしく願います。

(1)

「結婚してください!!」

家を出て、高校へ向かう途中の通学路。突然響いたその言葉に、私は目を何度も瞬かせながら振り向いた。

そこには、ランドセルを背負った小学三年生になったばかりの男の子。その子が、めちゃくちゃ真剣な顔でこちらを見上げている姿があった。見慣れたその子に、私はふう、と息を吐く。

「おはよう、あつくん」

軽くあいさつをすれば、黄色い帽子に包まれた頭をずっと私の方に押しやりながら、その子　あつくんはあいさつの返答もそこそこに、私へつめ寄ってくる。

「ねえねえ、いつ結婚してくれる？」

「いつって、それ昨日も一昨日もその前もきいてきたじゃないの」「だって、ちゃんと答えてくれないんだもん」

ぶつと頬をふくらませるあつくんに、私は苦笑いを浮かべた。そういう話題はあまり興味がない、て言ったらもつと怒るんだろうな、この子は。

私は「うーん」と首をひねりながら、まっすぐ立てた人差し指を唇に当てた。

「そうだなあ……、あと15年経って、あつくんがめちゃくちゃ力ツコイイ男の人になってたら、考えてもいいかも」

私の答えに、あつくんの顔がぱあつと輝いた。

「15年だね？ わかった。絶対だよ？ 約束だからね、美結<sup>みゆ</sup>おねえちゃん！」

駆けていく背中を見送りながら、私は手を左右に振った。

可愛いなあ、と朝からほのぼののしてしまう。今日で何回目だろう、あつくんからのプロポーズ。今までは「急いでいるから、また今度ね」と適当にあしらってきたけど、今日は何となく条件を出してしまった。

彼は、将来イケメンになるんだろうな。幼いけれど、すごく整った顔立ちをしているもの。

15年……、かあ。思いついたまま口にしてしまったけれど、15年も経ったら、私は三十路超えのおばさんだ。どう考えても、眼中にはないだろうな。

「ま。もともと私、年下には興味ないしね」

そうしめくくって、私はいつものコースで高校へと向かった。

\*\*\*

「結婚してください」

「……は？」

私の前には、ちょっと変わった服装に身を包んだ背の高い超絶イケメン。

その彼に、私は通学途中の道ばたで、いきなり面と向かってそう告げられたのだ。

なんで？ どうして？

私の頭を、？マークが大量によぎっていく。

「あの、誰かと間違っていますか？」

「いや。きみは、相原美結さんでしょ？」

「そうですけど……、どうして私の名前を知っているんですか？」

「幼馴染だからね、きみとおれは」

「はい？」

いやいやいや。

私の幼馴染に、あなたのような超絶イケメンさんは、どこをひっくり返しても出てきませんから。

「やっぱり人違いですよ。他の“相原美結”さんを当たってください  
い」

そう言っ、私は彼の横を通り過ぎようとする。

と。私の手首がガツとつかまれ、振り向いた私に彼がつめ寄ってきた。その真剣な顔立ちに、私はデジャブを感じ思わず息をのむ。

「あの言葉は、嘘だったんだ？」

「あの言葉……って」

たずねられても、私には心当たりが全くない。

そんな私に、彼は少しだけさびしそうな表情を浮かべた。

「15年経ったら結婚してくれるって言ったじゃないか。美結、お

ねえちゃん」

「……！」

その言葉に、私は絶句してしまった。

確かに言った。確かに昨日、そう言った。

でも、ちよつと待って。それを言った相手は、昔から知っている  
幼馴染の小学三年生の男の子で。どう考えても、目の前の超絶  
イケメンと結びつかない。だけど、そう言ったのはあの子にだけで、  
しかも他に兄弟のいない私を“おねえちゃん”呼ばわりするのは、  
あの子だけしかいないと思う。

いやそんな。まさか、もしかしてもしかする、わけ？

「……あつくん、なの？」

「そうだよ」

そのあっさりとした返事に、私はただただポカーンとなりながら、  
目を見開くだけだった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0097z/>

---

幼馴染          恋人になる条件

2011年11月30日18時45分発行